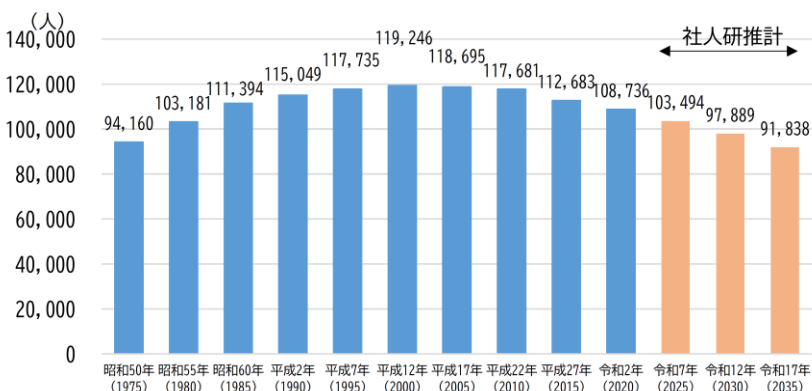


## ■羽曳野市の人口推計 人口減少の進展



## ■社会情勢

- ①人口減少・少子高齢化の進行
- ②ライフスタイルや価値観の多様化・働く環境の変化
- ③デジタル社会の進展

## ■国：デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023年度～2027年度）

- デジタル実装の基礎条件整備**
- ① 地方に仕事をつくる
  - ② 人の流れをつくる
  - ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
  - ④ 魅力的な地域をつくる

- デジタルの力を活用した地方の社会課題解決**
- ① デジタル基盤の整備
  - ② デジタル人材の育成・確保
  - ③ 誰一人取り残されないための取組

## ■国：地方創生2.0基本構想の5つの柱

- ① 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
- ② 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生
- ③ 人や企業の地方分散
- ④ 新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用
- ⑤ 広域リージョン連携（企業・大学等の多様な主体との連携）

※地方創生2.0基本構想を踏まえた総合戦略を2025年中に策定予定

## ■大阪府：第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略（2025年度～2029年度）

- 方向性**
- ① 若者が活躍でき、子育て安心の都市「大阪」の実現
  - ② 東西二極の一極としての社会経済構造の構築
  - ③ 人口減少・超高齢社会でも持続可能な地域づくり

- 基本目標**
- ① これからの大阪を担うひとをつくる
  - ② 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
  - ③ 大阪の経済を強くする
  - ④ ひとが集まる大阪をつくる
  - ⑤ 住み続けたいまちをつくる
  - ⑥ 誰もが健康で活躍できるまちをつくる

## ■羽曳野市第2期総合戦略の総括

- 数値目標は全て「評価C（目標達成に向け、概ね予定どおり進捗）」以上で、概ね順調に進捗。
- 大半のKPIにおいて進捗が改善や増加等が見られたことから、施策や取り組み内容については、一定の成果があったが、一部のKPIについては、実績の乏しいものもあるため、取り組み内容等の検証が必要。
- 人口減少が進行しているため、これまでの取り組みを切れ目なく進めるとともに、社会情勢等を踏まえ、取り組みの充実・強化や見直しを行うことが重要。

国・府の動向、社会情勢の変化や施策の成果・課題を踏まえ、第3期総合戦略を策定

## 第3期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2026年度～2030年度）

## 【基本目標】（案）

- （ひとの創生）⇒国の柱①の要素
- ①結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現と「生きる力」を育む教育環境の充実
- （しごとの創生）⇒国の柱②の要素
- ②地域のポテンシャルを活かし、稼ぐ力の向上による地域経済の発展
- （まちの創生）⇒国の柱①、③の要素
- ③地域の活性化・都市魅力の向上による選ばれるまちづくり

## 【横断的視点】（案）

- 新しい時代の流れを力にする（DXの推進、新技術の活用等）⇒国の柱④の要素
- 多様な人材の活躍を推進する（企業・大学等の多様な主体との連携）⇒国の柱⑤の要素

総合計画との関連性を示した上で、施策の中から総合戦略の目的に合致する取組・指標（KPI）を抽出

